

カリキュラム区分		現行カリ		シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
助産学実践領域	S107	1年	前期	助産学専攻科	必修	助産診断・技術学Ⅰ	30	1
						Midwifery Clinical Skills Ⅰ		
担当教員								
今村 朋子		井上 明子		瀧本 千紗				
関連するDPキーワード								
<input type="radio"/>	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。							
<input type="radio"/>	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。							
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。							
<input type="radio"/>	④ マタニティサイクルにある対象の個別性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる							
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。							
<input type="radio"/>	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。							
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。							
授業目的								
本科目では、第1回～6回までを《助産診断技術学の基礎》として、助産診断・技術学の導入としてマタニティサイクル全体を通した助産診断枠組みと援助の基本について学習する。第7回以降で《妊娠期の助産診断・技術》として、妊娠期に焦点を当てて学習する。妊娠期は、これからの出産・育児に向けた準備期間であり、妊娠期を丁寧に過ごすためには、保健指導による助産師の関わりが重要である。そのことをふまえて、妊婦とその家族の事例展開により、助産師として妊婦健診や保健指導を自立して実施するために必要な基礎的能力を養う。								
到達目標（授業目標）								
1. マタニティサイクルの助産診断枠組みと援助の基本が理解できる。 2. 妊娠期の診断と援助を行うための知識・技術を習得し、助産過程を展開することができる。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	助産診断・助産技術学 スタート編：「お産とはなにか？助産とはなにか？」 主体的な学びと助産学生のゴールとは？ [今村]							
2回	助産診断・助産技術とは？：マタニティサイクルの助産診断類型と助産過程 助産診断と援助・技術の関係 [今村]							
3回	助産援助とは？：助産援助の基本となる概念とアプローチ法 [今村]							
4回	女性のからだ理解のワーク：骨盤周辺の形態機能の特徴 [今村]							
5回	妊娠・分娩期のフィジカルイグザミネーション：【技術演習】母体と胎児の診察技術と診断 腹部計測・レオポルド触診法・胎児心音聴取（トラウベ・ドップラー・胎児心拍モニタリング） [今村・井上・瀧本]							
6回	妊娠・分娩期のフィジカルイグザミネーション：【技術演習】母体と胎児の診察技術と診断 腹部計測・レオポルド触診法・胎児心音聴取（トラウベ・ドップラー・胎児心拍モニタリング） [今村・井上・瀧本]							
7回	事例展開① 妊娠初期：妊娠の診断：妊娠の診断、予定日の確定 妊娠初期における妊婦の身体・心理的状態の理解 [今村]							
8回	事例展開準備 初期検査の判定：妊娠初期検査の判定 助産録における基本情報の整理 [今村]							
9回	事例展開② 妊娠初期：助産院初診：助産業務ガイドラインとリスク判定 妊婦健診スケジュールと社会制度 [今村・瀧本]							
10回	事例展開③ 妊娠中期：24週：妊娠中期の特徴に応じた健康診査と保健指導 妊婦健診の実際【シミュレーション】保健指導の実践 [今村・瀧本]							
11回	事例展開③ 妊娠中期：24週：妊娠中期の特徴に応じた健康診査と保健指導 妊婦健診の実際【シミュレーション】保健指導の実践 [今村・瀧本]							
12回	事例展開④ 妊娠後期：36週：妊娠後期の特徴に応じた健康診査と保健指導【シミュレーション】妊婦健診・保健指導の実践 [今村・瀧本]							
13回	事例展開④ 妊娠後期：37週：妊娠後期の特徴に応じた健康診査と保健指導【シミュレーション】妊婦健診・保健指導の実践 [今村・瀧本]							
14回	妊娠期の助産診断まとめ 効果的な保健指導とは？：36週の診断結果のディスカッション 健康教育の理論、助産師が行う保健指導の特徴セルフケアを促す保健指導の展開とは？ [今村]							
15回	妊娠経過に基づく分娩予測とリスク診断：【診断演習】妊婦健診39週の様々な事例の診断 [今村]							
16回								
17回								

18回							
19回							
20回							
21回							
22回							
23回							
24回							
25回							
26回							
27回							
28回							
29回							
30回							
成績評価方法及び基準							
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（50%） ・39w：実技試験（50%） 各評価ともに6割を合格の条件とする。※授業態度で減点あり。							
教科書	共通シラバスのとおり						
参考図書等	進 純郎、高木愛子「(ブラッシュアップ助産学)助産外来の健診技術」(医学書院) 我部山キヨ子、大石時子「助産師のためのフィジカルイグザミネーション」(医学書院) 鈴木由美「マタニティサイクルの実践保健指導(妊娠期)」(丸善プラネット)						
授業時間外の学習について(授業準備のための指示)							
毎回、次の授業に向けた課題があるため、授業時間外での事前学習が必要となります。 授業は、各自が実施してきた課題を確認する形式で行います。							
関連科目							
前科目	S101 助産学概論	S103 周産期医学	S112 統合ヘルスケア				
後科目	助産診断・技術学Ⅱ ～Ⅲ	S110 助産診断・技術特論	助産学実習Ⅰ～Ⅳ	S111 周産期ハイリスクケ ア論			
実務家教員							
備考	※14回の後、事例展開⑤として39週妊婦健診場面の実技試験を実施します。 (今村・井上・瀧本)						